

# 新版 経絡経穴概論 拡大版 第2版3刷→第2版4刷の変更・修正点

『新版 経絡経穴概論 拡大版』は第2版3刷(2015年3月25日)から第2版4刷(2016年3月25日)に伴い、いくつか修正・追加した箇所がございます。

ページ	訂正箇所	変更前	変更後
p.35	記載方法(大幅に加筆)	<p style="text-align: center;"><b>II. 十四経脈とその経穴</b></p> <p style="text-align: center;">記載方法</p> <p style="text-align: center;">本項を記すにあたって留意事項を以下に示す。</p> <p>①本書の部位ならびに取り方(取穴法)は、WHO/WPROの2010年3月時点の資料を元に作成した。</p> <p>②WHO/WPROに記載はないが、取り方や解剖、要穴も記した。</p> <p>③解剖については、以下のように配慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 十四経脈の「解剖の部」において、部位・取り方に使用されている筋・腱名については同部に直接関与しないものもあるが、解剖の項目の中に入れて記載した。</li> <li>• 「解剖の部」を記載するにあたり多くの解剖書を参考にしたが、諸説がある場合には、主として『分担解剖学』(金原出版)を参考とした。</li> <li>• 解剖欄の記載にあたっては、筋枝は〈 〉、皮枝は( )、血管は[ ]で示し、筋、腱の後に、この順で記載した。また、補足は*にて記載した。</li> <li>• 複数の筋が同じ筋枝のときは筋名を・(中黒)で並列に記載した。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>II. 十四経脈とその経穴</b></p> <p style="text-align: center;">記載方法</p> <p style="text-align: center;">本項を記すにあたっての留意事項を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本書の部位ならびに取り方(取穴法)は、『WHO/WPRO 標準経穴部位—日本語公式版—』(以下「公式版」)を元に作成した。</li> <li>2. 「公式版」は十二経脈・奇経八脈の順に記載されているが、学習効率を考慮して、奇経八脈の督脈・任脈を先に配置した。</li> <li>3. 「公式版」は、英語文を日本語訳したものであるため、言い回しを統一できない部位がある。そのため、部位が異なるように配慮しながら、一部の経穴部位の表現を統一して訂正した。</li> <li>4. 「公式版」には記載はないが、取り方・解剖・要穴も記した。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 取り方については、以下のように配慮した。                 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 触診により部位を確認できる方法を優先して記載するようにした。</li> <li>② 空欄にならないように、部位とほぼ同じ文であっても記載した。</li> <li>③ 「公式版」には記載されていない上腕の長さについて、触診のみで部位を決定する場合の便宜を考慮して、上肢下垂時の上腕の長さ(肩峰外側端～肘窩)の骨度を1尺2寸とした。</li> </ol> </li> <li>2) 解剖については、以下のように配慮した。                 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「公式版」の部位は変更しない。 * 風池が前頸部、腓脛の下腿に屈側とあるなど、学校協会の解剖学教科書とは異なる記載であるが、そのまま記した。</li> <li>② 「解剖」を記載するにあたり多くの解剖書を参考にしたが、諸説がある場合には、主として『分担解剖学』(金原出版)を参考とした。</li> <li>③ 解剖の記載にあたっては、筋枝は〈 〉、皮枝は( )、血管は[ ]で示し、筋・腱の後に、この順で記載した。また、補足は*にて記載した。</li> <li>④ 複数の筋が同じ筋枝のときは筋名を・(中黒)で並列に記載した。</li> <li>⑤ 部位や取り方に使用されている筋・腱名については、経穴の部位に直接関与しないものもあるが、経穴と密接な関係があるため、解剖に含めて記載した。</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5. イラスト図は平面図であるので、実際の経穴部位決定の参考資料として利用してほしい。</li> </ol>
p.74	雲門の「解剖」の文章を一部削除	大胸筋〈筋枝〉内側・外側胸筋神経、〈皮枝〉鎖骨上神経、[血管] 胸肩峰動脈・外側胸動脈 * 腋窩動脈が深部を通る。	〈皮枝〉鎖骨上神経、[血管] 胸肩峰動脈・外側胸動脈 * 腋窩動脈が深部を通る。
p.92	曲池の「取り方」から*以下の文章を削除	肘を深く曲げ、肘窩横紋外端の陥凹中に入る。 * 肩関節を90度外転したときの曲池から肩髃までの長さを便宜上1尺とする。	肘を深く曲げ、肘窩横紋外端の陥凹中に入る。
p.95	上側の「骨格図」、×モリを消去		

ページ	訂正箇所	変更前	変更後
p.95	下側の「筋肉図」, 手五里 周辺の筋肉のラインを修正		
p.132	内庭の「部位」の表現を修正	足背, 第2・第3足指間, みずかきの後縁, 赤白肉際.	足背, 第2・第3指間, みずかきの後縁, 赤白肉際.
p.138	大都の「部位」の表現を修正	足の第1指, 第1中足指節関節の遠位陥凹部, 赤白肉際.	足の第1指, 第1中足指節関節内側の遠位陥凹部, 赤白肉際.
p.138	太白の「部位」の表現を修正	足内側, 第1中足指節関節の近位陥凹部, 赤白肉際.	足内側, 第1中足指節関節内側の近位陥凹部, 赤白肉際.
p.140	公孫の「部位」の表現を修正	足内側, 第1中足骨底の前下方, 赤白肉際.	足内側, 第1中足骨底内側の遠位陥凹部, 赤白肉際.
p.176	天容の「解剖」の誤字を修正	[血管] 後頸動脈	[血管] 後頭動脈
p.224	束骨の「部位」の表現を修正	足外側, 第5中足指節関節の近位陥凹部, 赤白肉際.	足外側, 第5中足指節関節外側の近位陥凹部, 赤白肉際.
p.226	足通谷の「部位」の表現を修正	足の第5指, 第5中足指節関節の遠位外側陥凹部, 赤白肉際.	足の第5指, 第5中足指節関節外側の遠位陥凹部, 赤白肉際.
p.260	中渚の「部位」の表現を修正	手背, 第4・第5中手骨間, 第4中手指節関節近位の陥凹部.	手背, 第4・第5中手骨間, 第4中手指節関節の近位陥凹部.
p.302	光明の「取り方」の表現を修正	外果尖の上方5寸で, 腓骨の前縁に取る.	外果尖と膝窩横紋外端を結ぶ線上の外果尖の上方5寸で, 腓骨の前方に取る.
p.302	陽輔の「取り方」の表現を修正	外果尖と膝窩横紋外端とを結ぶ線を4等分し, 外果尖から4分の1のところ, 腓骨の前縁に取る.	外果尖と膝窩横紋外端とを結ぶ線を4等分し, 外果尖から4分の1のところ, 腓骨の前方に取る.
p.306	地五会の「部位」の表現を修正	足背, 第4・第5中足骨間, 第4中足指節関節近位の陥凹部.	足背, 第4・第5中足骨間, 第4中足指節関節の近位陥凹部.